

夜中に急に歯が痛くなつた時ほど辛いことはありません。歯医者さんは閉まっているし途方

## 歯痛の応急手当に

サナモアを求める動機は様々ですが、口の中の病気の治療を目的に求める方は少ないようです。でもサナモアの附属品のガラス管付きの集光器(三号集光器)は、口腔内疾患の治療のために附けたのです。

サナモアの使用法を説明する時、"ガラス管は洗浄してから患部に光線が良く当るようになくわえて使って下さい"と話すと、"口の中にも使えるのですか" "どんな時に使うのですか"と意外そうに聞き直す人がいます。しかし、サナモア光線の効果は、歯科領域でも他の凡ゆる疾患におけると同様に認められているのです。

サナモアを求める動機は様々ですが、口の中の病気の治療を目的に求める方は少ないようです。でもサナモアの附属品のガラス管付きの集光器(三号集光器)は、口腔内疾患の治療のために附けたのです。

## ガラス管付き集光器

に暮れています。

こんな時の応急手当に、サナ

モア光線は絶大な威力を發揮し

ます。カーボンはAとBを組合

せて、患部に口腔内や頬から20

分照射すれば、大概の歯の

痛みは即座に和らぎます。

但し、歯痛の

痛みは即座に和らぎます。

1. 化膿させなくてすむ。

2. 従つて、歯髄炎から歯根

膜炎を起こさない。

3. 治りが早いので治療日数

を短縮できる。

4. その他に、患者の苦痛を

軽減し、児童にも楽に施術でき、消毒効果がある。

なお、虫歯のため歯冠部がこわれ抜歯せざるを得ない場合にも、サナモアは疼痛や腫れを減じ、肉芽の上りを佳良にします。

この歯髄炎の治療に光線療法

を併用することの利点を、歯科

医の中山信平先生は次の如く述べています。

虫歯と並んで極めて多い病気

連鎖球菌が歯のエナメル質や象牙質を破壊し、炎症が歯髄に及んだ結果です。

この歯髄炎の治療に光線療法

を併用することの利点を、歯科

医の中山信平先生は次の如く述べています。

虫歯の痛みは、ミュウタンス連鎖球菌が歯のエナメル質や象牙質を破壊し、炎症が歯髄に及んだ結果です。

この歯髄炎の治療に光線療法

を併用することの利点を、歯科

医の中山信平先生は次の如く述べています。

虫歯と並んで極めて多い病気

連鎖球菌が歯のエナメル質や象

牙質を破壊し、炎症が歯髄に及

んだ結果です。

この歯髄炎の治療に光線療法

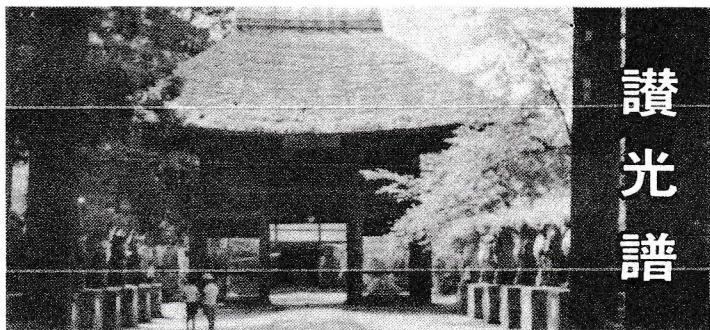
を併用することの利点を、歯科

医の中山信平先生は次の如く述べています。

虫歯と並んで極めて多い病気



## 讀光譜



## 健康と不健康

世の中に、善は実在するが悪は実在しないといわれている。つまり悪は元来実在するものではなく、善の存在しない状態が悪である。

ある。例えば、光と闇との関係のようなもので、光は実在するが闇は実在しない。故に、光で闇を消すことはできるが、闇で光を消すことはできない。闇とは光のない状態のことである。

このことは人間の体についても同じである。即ち、健康は実在するが不健康は実在しない。健康でないのが不健康である。

健康が増進すれば不健康はそれだけ減少する。不健康になると病氣にかかるのであり、不健康と病氣とは同じものの両面と考えてもよい。

そこで、病氣の治し方にも二通りの方法が生まれてくるのである。一つは専ら病氣だけを攻める方法であり、一つは健康を増して不健康を除き、病氣がとりつく余地をなくすことである。何れがよいかは場合によっても異なるが、後者の方が理想的とい

最近、予防医学とか環境衛生と

本的な解決法である。

サナモアが病氣に効果があるのは、人々の健康を増し、不健康を除去する力が大きいからである。細菌も光のない暗いところに好んで繁殖するのである。

梅雨の季節には、光線不足のために消化液の分泌が少なくなったり、胃腸障害を起こしやすい。そのため、栄養の吸収が悪くなり、ビタミン不足を來して体力が衰え、疲れ易く、電車の中でも居

喘息や百日咳や生理異常等もこの季節に多い。また細菌類はわが世の春でいよいよ繁殖に適するから、急性伝染病が流行し、皮膚病も多くなる。

## 光がないと

光のないところに病氣がはびこることは、暗いところに犯罪が行われるのと同じである。警

## 宇都宮 義真

## 梅雨時の健康法

察力を充実して罪人を検挙するのもよいが、公園や横町等の暗いところに街燈をふやして犯罪の発生を防止することはより根

上に達しないために光線不足を來し、抵抗力が衰えることも一因である。

梅雨の季節には、光線不足のためには、消化液の分泌が少なくなり、胃腸障害を起こしやすい。こ

のため、栄養の吸収が悪くなり、ビタミン不足を來して体力が衰え、疲れ易く、電車の中でも居

より要約した。

「健康と光線」  
昭和33年3月5日発行  
—病気と不健康—  
昭和35年6月5日発行

## 健康と光線

前号に上野先生から、E・Sさんの「子宮癌闘病日記」の寄稿を受け掲載しましたが、二、三の方からその後の経過について質問がありました。此度、日記の続きを送って戴きましたので掲載します。このため、「応用光線療法学」は休みます。

昭和59年11月8日(木)  
少し固まった便が出た。のどに固まりのようなものがあり、食事がしにくい。

昭和59年11月9日(金)  
上野先生にのどの治療をしていて、とても気持ちよい。腰が痛く、右腹だけではなく左腹も痛む。

昭和59年11月10日(土)  
食事がおいしい。胃の調子はいい。お電話で励ましてくださる。

昭和59年11月11日(日)  
朝から身体が重く気分がすぐれない。朝から首すじにか

昭和59年11月12日(月)  
今日は身体が軽い。右横腹が少し張れている。子宮に何かがたまっているような気がする。

昭和59年11月13日(火)  
夜時頃、光線治療後に白いねばねばしたおりものが出了。

昭和59年11月14日(水)  
今日からDDカーボンにする。右腹部の帯状の太いしづりが波のようにピクピクと動く。足のひきつれがとても楽になった。

昭和59年11月15日(木)  
朝の目覚めがよく、おなかの痛みもほとんどなく快調。

昭和59年11月16日(金)  
便通もよくなる。

昭和59年11月17日(土)  
先生から鎌倉彫をいただく。お守りとして大切にします。

昭和59年11月18日(日)  
痛みもやわらぎ、気分よい一日。

昭和59年11月19日(月)  
先生から「Sさん、よいお正月が迎えられそうね」と言われ日を過ごす。

昭和59年11月20日(火)  
昼ごろ、右乳首から黄色のねばねばしたものが出るのに気付く。痛みはない。

昭和59年11月21日(水)  
先生に昨日のこと話を聞く。出るほどくなるから心配はないらしい」と言われる。

昭和59年11月22日(木)  
身体が軽くなり気分もよい。

昭和59年11月23日(金)  
朝から身体が重く気分がすぐれない。

昭和59年11月24日(土)  
朝から生理が始まる。今までほどは出血しないが、腰がはり

さけそうに痛い。夕方までだらだらと過す。

昭和59年11月25日(日)  
朝6時起床 痛みがひどい、

出血あり。

昭和59年11月26日(月)  
出血が少くなり、気分も落

ちつく。

昭和59年11月27日(火)  
出血止る。気分もよく食欲も出てくる。

昭和59年11月28日(水)  
身体が軽くなる。

友と会う。あれやこれやの質問をめぐらす。

「どんな手術をしたの」「この

わい病気なのに、おだやかな笑みがでるの」「性格も変ったみたい

今までの経過を一部始終話す。

みんなびっくりし、先生のすばらしさに感心する。

1月7日(月)  
子をこの目で見て、自分のこと

と合わせて胸があつくなる。ゆうつそうな顔できた患者さんが、

い。少々おりものあり。色はな

い。少々おりもの



## アトピー性皮膚炎



アトピー性皮膚炎の皮膚発疹

近年、アトピー性皮膚炎と診断される例が著しく増えていました。患者が子どもに多いこともあって、身内の人も戸惑つているようです。人生経験豊かなお爺ちゃん、お婆ちゃんも、可愛いい孫が聞いたこともない病気にかかったのですから吃驚してします。

昔、聞かなかつたのは当り前です。戦前、アトピー性皮膚炎なる病名はありませんでした。アトピーという耳新しい、その上、何だか難しそうな言葉は、戦後、アメリカから移入されたのです。

アトピーの近似語はアレルギーです。ただし、アレルギーが広く過敏性体質全般を表現しているのに対し、アトピーといふのは遺伝性の過敏体質の意味に

使われています。これを分り易く言い換えると、多くの皮膚病の発病にアレルギーが関係しているからといって、アレルギー性皮膚炎では範囲が広すぎて病名になりませんが、アトピー性皮膚炎なら、生まれつきの体质がもとになつて起きる湿疹と定義すれば、この病気は、昔かとすれば、この病名になります。

この内因と外因のどちらが主に発病に関与するかによって病名を内因、後者を外因と言います。この内因と外因のどちらが主に発病に関与するかによって

微妙な違いがあるだけなのです。

あります。

これに対し、主に外因が発病

原因の場合、接触性皮膚炎と診

断されます

が、外因を避けるこ

とに

よつて予防も可能です。

さて、アトピー性皮膚炎の発

生

じでほとんどの区別できませんが、

年令とともに皮膚は厚く硬くな

り、慢性湿疹の様になります。

本症は、学童期には軽快する傾

向がみられます。

症状は非常に痒いのが特徴

です。そのため、かきむしるので

発疹は益々悪くなります。皮膚

面もじめじめしてきて分泌物が

多くなり、やがてかさぶた(痂皮)

になります。

治療は、患部の局所療法と、

体质改善を意図した全身療法が

必要です。まず、局所療法で最

も大切なことは痒みを止めるこ

とです。光線のうち止痒作用が

強いのは紫外線ですが、患部が

じめじめしているようなら、あ

まり刺戟しないためにBカーボン

で治療を始め、病巣が乾いて

きたらAB、A、AC、Cカーボン

と順次紫外線を増やして治

療します。全身療法は、AB又

トピー性皮膚炎と診断され、単

に湿疹になりやすい体质とすれ

ば、湿疹と診断されます。この

場合、外因は確定できないこと

のために、患部が改善しても続

ける必要があります。

## サナモア光線療法

### アラカルト

サナモアはお役に立つてます  
か。

特にこれと言った病気のない  
方にも、健康法として役立ちま  
すので活用して下さい。

ところで今回は、「光線療法  
学」に掲載されていないために、  
よく問合せを受けるアトピー性  
皮膚炎と痛風をとりあげました。

### 明宮博士医学都宇

私は、医学生として昭和30年代前半に医学教育を受けました  
が、当時は痛風は欧米人の病気  
で日本人には殆んどないと教わ  
りました。しかし現今、痛風  
は日本人にもよくある病気にな  
りました。

私は、痛風に対する医師の関  
心が低かったから、関節の痛み  
を関節炎とかリウマチと診断し  
てしまい見落したとする説もあ  
りますが、これで激増を説明す  
るのは無理があります。それよ  
りも、日本人の病気の変貌、具



肘関節部に認めた痛風結節

## 痛風

### 痛風

私は、痛風患者が激増した

は歴然たる事実です。その理由

についていろいろ取りざたされ

ています。ここで問題になる点

は、昔と今とどこがどう違つた

かです。

昔は、痛風に対する医師の関

心が低かったから、関節の痛み

を関節炎とかリウマチと診断し

てしまい見落したとする説もあ

りますが、これで激増を説明す

るのは無理があります。それよ

りも、日本人の病気の変貌、具

は、湿疹と診断されます。この

場合、外因は確定できないこと

のために、患部が改善しても続

ける必要があります。

（六ページへ続く）

(五ページから続く)

体的に言えば、歯止めなく進む病気の欧米化の一環としてとらえる必要があるのではないでしようか。これには、未だ知られる原因もあると思いますが、日常生活における変化を抜きには考えられません。即ち、食事は蛋白質や脂肪の多い高カロリー食になつたのに、身体を動かしてエネルギーを消費すること、や、日光浴の機会が減つたのが激増の主な誘因ではないでしょうか。後述するように、光線浴には痛風を予防する効果もあるのです。

かないうちに腎臓に合併症を起こすことがあります。これは尿酸が腎臓に沈着するためで、痛風腎といいますが、進行悪化すると腎不全から尿毒症になることがあります。従って、尿酸が腎臓に沈着するのを防ぐことが大切です。

痛風のサナモア光線療法は、前述のアトピー性皮膚炎と同じように、局所療法と全身療法とに分けて考えると理解しやすくなります。

局所療法には、サナモアの鎮

痛効果を利用します。関節炎を起こし、熱をもって赤く腫れて痛みの患部へ照射すれば、炎症を鎮め、痛みを和らげます。カーボンは、鎮痛効果に優れた赤外線に富むBカーボン单独かABカーボンを組合せて使用し、可及的多方向より照射してくださいます。照射時間及び回数は、二十分～三十分、一日一回を目安にしますが、格別痛みの激しい場合には、鎮痛に時間を要しますので、一回に一時間、日に二回と三回照射することもあります。勿論、痛みが軽減すれば、長時間の照射は要りません。

次にサナモアの全身療法について考察します。サナモア光線は、生体のいろいろな機能を高めますが、腎臓に作用して利尿をつけ、尿酸の排泄を増加させます。この効果は特に重要で、長い間の働きがあります。痛風の場合、この効果は特に重要で、長い目

でみると、関節痛の治療よりこらうの方が大切です。

また、痛風は利用頻度の高い降圧剤や利尿剤で起こることがあります。もしも薬の服用中に痛風になつたら、必ず医師に相談して疑いがあれば即刻中止しなければなりません。

終りに注意事項を付言します。  
まず、痛風の食事療法についてですが、以前はプリンの多い動物性蛋白の摂取を厳しく制限しました。しかし、制限しても血液中の尿酸は殆んど下らないことが明らかにされたため、食事制限は必要ないとする意見もありますが、過剰に食べるのはいけません。

でみると、関節痛の治療よりも  
ちらの方が大切です。

全身療法は、A-Bカーボンを  
使い、腹前後各十分、膝十分、  
足裏十分照射します。この治療  
は、関節症状の有無にかかわらず  
続けてこそ、病状管理に効力を  
発揮します。ピンカセンは、  
光線照射がプリン代謝に与える  
影響を検討し、尿中への尿酸の  
排泄が増えることを認め、痛風  
患者に光線照射をすることの効  
果を支持する確かな根拠と報告  
しました。また、ブラグス・モ  
リターは、光線は常に尿の出を  
よくすると報告していますが、  
この作業は、腎への尿酸沈着を  
予防します。なお、この際、水  
を多めに飲むことは一層効果的  
です。

光線療法が、人々の健康に寄与し得ることは疑いないにも拘らず 現状の医療体系は薬物 手術に偏り 光線の効果についての一般的認識はなお不十分と言わざるを得ません。このため 人々の健康を願つと共に光線療法について 啓蒙 普及活動を行う目的で サナモア中央診療所内に サナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は 設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し 会員相互の懇親 体験発表意見交換を通して 光線療法についての理解を深めるため「健康と光線」を季刊にて発行します。

サナモア光線協会

協会では、会員を募集しております。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18  
サナモア光線協会 TEL(03)793-5281  
七一二一五三二二



廿二年光緯協會